

## 【第 1 問】

## 【解答】

1 (1) まず

$$\begin{aligned}
 y &= -x^2 + (2a-5)x - 2a^2 + 5a + 3 \\
 &= -\left(x - \frac{2a-5}{2}\right)^2 + \frac{-4a^2+37}{4}
 \end{aligned}$$

◀ 平方完成

よって、グラフ  $C$  の頂点の座標は  $\left(\frac{2a-5}{2}, \frac{-4a^2+37}{4}\right)$  である。

(2) グラフ  $C$  は上に凸の放物線だから、 $x$  軸と異なる 2 点で交わるためには、頂点の  $y$  座標が正であればよい。したがって

$$\begin{aligned}
 \frac{-4a^2+37}{4} &> 0 \\
 \Leftrightarrow -\frac{\sqrt{37}}{2} &< a < \frac{\sqrt{37}}{2} \quad \dots\dots ①
 \end{aligned}$$

である。

◀ 判別式  $D$  を考えて

(3) グラフ  $C$  と  $x$  軸との 2 つの交点の  $x$  座標は

$$-x^2 + (2a-5)x - 2a^2 + 5a + 3 = 0$$

を解いて

$$x = \frac{2a-5 \pm \sqrt{-4a^2+37}}{2} \quad \dots\dots ②$$

である。

また、 $a$  は ① を満たす整数なので、 $a = \pm 3, \pm 2, \pm 1, 0$  である。

これらを ② に代入して調べると、 $a = \pm 3$  のときだけ、② は整数となる。よって、交点  $x$  の座標は  $x = -5, -6$  である。

2 (1)  $a, b$  が等しければ  $u = 1$  なので、 $u = 1$  となる  $a, b$  の組み合わせは

$$\begin{aligned}
 (a, b) &= (1, 1), (2, 2), (3, 3), \\
 &\quad (4, 4), (5, 5), (6, 6)
 \end{aligned}$$

の 6 通りである。

目の出方は全部で 36 通りなので

$$P(u=1) = \frac{6}{36} = \frac{1}{6}$$

$$\begin{aligned}
 D &> 0 \\
 \Leftrightarrow (2a-5)^2 + 4(-2a^2+5a+3) &> 0 \\
 \Leftrightarrow -4a^2+37 &> 0 \\
 \Leftrightarrow -\frac{\sqrt{37}}{2} &< a < \frac{\sqrt{37}}{2}
 \end{aligned}$$

でもよい。

(2)  $u > 1$  となるのは,  $a > b$  となるときである. それは

$$(a, b) = (2, 1), (3, 1), (3, 2), (4, 1), (4, 2), \\ (4, 3), (5, 1), (5, 2), (5, 3), (5, 4), \\ (6, 1), (6, 2), (6, 3), (6, 4), (6, 5)$$

のときである. よって

$$P(u > 1) = \frac{5}{12}$$

(3)  $u = 1$  となるのは (1) より 6 通り

$$u = 2 \text{ となるのは } (2, 1), (4, 2), (6, 3)$$

$$u = 3 \text{ となるのは } (3, 1), (6, 2)$$

$$u = 4 \text{ となるのは } (4, 1)$$

$$u = 5 \text{ となるのは } (5, 1)$$

$$u = 6 \text{ となるのは } (6, 1)$$

$$u \geq 7 \text{ はない}$$

よって

$$P(u \text{ が整数}) = \frac{14}{36} = \frac{7}{18}$$

(4)  $P$  が奇数となるのは, (3) より  $u = 1, 3, 5$  の 9 通り. よって

$$P(u \text{ が奇数}) = \frac{9}{36} = \frac{1}{4}$$

$P$  が偶数の場合は, (3) より

$$P(u = 2) = \frac{3}{36} = \frac{1}{12}$$

$$P(u = 4) = \frac{1}{36}$$

$$P(u = 6) = \frac{1}{36}$$

よって,  $T$  の期待値は

$$E(T) = 2 \cdot \frac{1}{12} + 4 \cdot \frac{1}{36} + 6 \cdot \frac{1}{36} + 1 \cdot \frac{1}{4} \\ = \frac{25}{36}$$

## 【第 2 問】

## 【解答】

1. (1)
- $A$
- を
- $B$
- で実際に割ると

$$Q = x + (m + 2)$$

$$R = (2m + n + 5)x + (3m + n + 3)$$

となる．また， $x = 1 + \sqrt{2}$  のとき

$$B = (1 + \sqrt{2})^2 - 2(1 + \sqrt{2}) - 1 = 0$$

である．さらにこのとき， $B = 0$  より

$$A = (2m + n + 5)(1 + \sqrt{2}) + 3m + n + 3 = -1$$

であるから，整数になるためには， $(1 + \sqrt{2})$  にかかる係数が 0 でなければならない．よって

$$\begin{cases} 2m + n + 5 = 0 \\ 3m + n + 3 = 0 \end{cases}$$

これを解くと， $m = 1$ ， $n = -7$  である．

- (2)  $x$  が奇数だと， $x^3 + 1$  は必ず偶数， $2m$  も偶数，さらに， $nx + n = n(x + 1)$  も偶数である．

よって，与えられた命題を満たすためには， $mx^2$  が偶数になればよい．

したがって， $m$  が偶数であることが  $x$  がどのような奇数であっても  $A$  の値が常に偶数であるための必要十分条件である．

2. 円
- $O$
- の半径を
- $r$
- とし，
- $\triangle AOP$
- に余弦定理を用いて

$$2^2 = r^2 + (\sqrt{6})^2 - 2r \cdot \sqrt{6} \cos 45^\circ$$

$$\Leftrightarrow r^2 - 2\sqrt{3}r + 2 = 0$$

これを解いて， $r = \sqrt{3} \pm 1$  である． $\angle AOP = 45^\circ$  より  $\angle AOB = 90^\circ$  であり，また  $OA = OB$  だから  $\triangle AOB$  は，直角二等辺三角形である．

よって

$$AB = \sqrt{2}r = \sqrt{6} - \sqrt{2}$$

また， $\angle OAB = 45^\circ$  より  $\angle BAC = 180^\circ - 45^\circ = 135^\circ$  ここで， $OC = t$  とする．

$\triangle COP$  に余弦定理を用いて  $t = \sqrt{3} \pm 1$  となる．ここ

で,  $t > r$  より  $t = \sqrt{3} + 1$  となる.

$$AC = t - r = (\sqrt{3} + 1) - (\sqrt{3} - 1) = 2$$

以上をもとに,  $\triangle ABC$  に余弦定理を用いて

$$\begin{aligned} BC^2 &= AB^2 + AC^2 - 2 \cdot AB \cdot AC \cos 135^\circ \\ &= (\sqrt{6} - \sqrt{2})^2 + 2^2 - 2(\sqrt{6} - \sqrt{2}) \cdot 2 \cdot \left(-\frac{1}{\sqrt{2}}\right) \\ &= 8 \end{aligned}$$

これを解いて

$$BC = \sqrt{8} = 2\sqrt{2}$$

## 【第 3 問】

## 【解答】

(1) 初項を  $a$  , 公比を  $r$  とすると

$$a_1 + a_2 = a + ar = 32 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$a_4 + a_5 = ar^3 + ar^4 = 864 \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

なので

$$\textcircled{2} \Leftrightarrow r^3(ar + a) = 864$$

$$\Leftrightarrow r^3 = \frac{864}{32} = 27$$

$$\Leftrightarrow r = 3$$

◀ ① を使った .

これを ① に代入して ,  $a + 3a = 32 \Leftrightarrow a = 8$  となる .よって ,  $a_n = 8 \cdot 3^{n-1}$  である .

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n ak + 4k - 2 &= \sum_{k=1}^n 8 \cdot 3^{k-1} + 4k - 2 \\ &= 8 \cdot \frac{3^n - 1}{3 - 1} + 4 \cdot \frac{n(n+1)}{2} - 2n \\ &= 4 \cdot 3^n + 2n^2 - 4 \end{aligned}$$

(2)  $9 \div 37 = 0.243243243$ 

243 の繰り返しなので ,  $b_n + p = b_n$  となる最小の  $P$  は 3 である . また , これは 2, 4, 3, 2, 4, 3, 2, 4, 3 を 33 回繰り返すので

$$\sum_{k=1}^{100} b_k = 2 \cdot 34 + 4 \cdot 33 + 3 \cdot 33 = 299$$

## 【第 4 問】

## 【解答】

(1) E は BC を 1 : 3 に内分するので

$$EC = \frac{3}{4}$$

△ECD に三平方の定理を用いて

$$ED = \sqrt{EC^2 + CD^2} = \sqrt{\left(\frac{3}{4}\right)^2 + 1^2} = \frac{5}{4}$$

である．よって

$$EF = ED - DF = \frac{5}{4} - 1 = \frac{1}{4}$$

△GBE と △GFE において，GH が円 D の F における接線なので， $\angle GBE = 90^\circ$ ， $\angle GFE = 90^\circ$ ，GE は共通である．

$$BE = \frac{1}{4}BC = \frac{1}{4} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

より  $BE = FE$  である．よって， $\triangle GBE \cong \triangle GFE$  である．

ゆえに， $\angle BGE = \angle AGE$  となる．

一方， $\angle GBE = 45^\circ = \angle EBI$  である．

(2)  $GA = GF = GB$  なので，G は AB の中点である．I は  $\angle GBH = 90^\circ$  の直角三角形 BGH の内心であるから，内接円の半径を  $r$  とすると， $JI = JB = r$  である．さらに， $JI \parallel BE$  だから， $GB : BE = GJ : JI \dots\dots \textcircled{2}$  である．

また，G は AB の中点なので， $GB = \frac{1}{2}$  であり， $GJ = GB - JB = \frac{1}{2} - r$  である．これらの値と ① を ② に代入して

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} : \frac{1}{4} &= \frac{1}{2} - r : r \\ \Leftrightarrow \frac{1}{2}r &= \frac{1}{8} - \frac{1}{4}r \\ \Leftrightarrow r &= \frac{1}{6} \end{aligned}$$